

基礎配筋検査報告書

J I O (日本住宅保証検査機構)

報告書提出日	2004年12月27日	検査日時	2004年12月25日 15時00分 ~
検査担当者	東潤美	検査立会者	安永 雄亮
ビルタ-登録No	A 6 1 0 0 0 7 7	ビルタ-様名	株式会社 森田住宅
登録物件No	Y 0 4 4 4 5 4 7	現場名	XXXXXXXXXX
基礎配筋検査合否判定		合格	

項目	方法	内 容	判定	備 考				
基 礎	▲	配筋の径及びピッチは設計図書通りか。 【深基礎】 横方向 D () @ () 縦方向 D () @ () ベース横筋 D (), ベース筋 D () @ () 【布基礎】 上端筋 D (), 下端筋 D () 腹筋 D (), タテ筋 D () @ () ベース横筋 D (), ベース筋 D () @ () 【ベタ基礎】 上端筋 D (13), 下端筋 D (13) 腹筋 D (10), タテ筋 D (10) @ (300) スラブ筋 D (10) @ (300), D (10) @ (300) ・配筋の径 (標準例) 上端筋・下端筋 D13以上, 腹筋 D10以上 タテ筋 D10以上 @300, ベース横筋 D10以上 ベース D10以上 @300, スラブ筋 D10以上 @300 ※立ち上がり・ベースの外周部と内部、スラブの中央部と端部で配筋が異なる場合は、外周部・端部を欄内に記入し、内部・中央部は備考欄に記入する。	—	× 不合格・状況が異なる場合は状況記入のこと				
		▲	ベース筋またはスラブ筋のスペーサーロックの高さが60mm以上あるか。		○			
			スペーサーロックを1,000mm内外で設けてあるか。		○			
			捨てコンクリートが施工されているか。 * <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		—			
		礎	▲		以下の各継手部分の補強が適切に行われているか、また定着長さが不足していないか。 ・ユニット鉄筋の出隅(入隅)、および各継手部分における補強筋の定着長さは40D以上とする。 ・現場組立鉄筋の出隅(入隅)部分は以下のいずれかとする。 ①各横筋を折り曲げた上、直交する他方向の横筋に300mm以上重ね合わせる。(D16以上は除く) ②一方の横筋を折り曲げ、他方向の横筋に定着長さ40D以上で重ね合わせる。	—	基礎パッキンのため 床下換気口なし	
						出隅(入隅)部分		○
						T型継手部分		○
						十字型継手部分		—
					直線継手部分	○		
		▲			床下換気口周囲の補強筋の径は適切か。 横筋 D (), 斜め筋 D () ・補強筋 (標準例) 公庫仕様書では横筋:D13 斜め筋:D10	—	基礎パッキンのため 床下換気口なし	
<input type="checkbox"/>		ベース型枠が設置されているか。 * <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	—					
▲		ベース寸法は基礎仕様計画書の寸法以上が確保されているか。(布基礎のみ確認し、ベタ基礎は対象外。)	—	ベタ基礎				

半地下部分がある場合に限り、以下も併せて確認します。

防水	<input type="checkbox"/>	万一浸水した際の排水措置(釜場等)はとられているか。 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
----	--------------------------	--	--

方法の凡例：■全数を計測確認 □全数を目視確認 ▲抽出で計測確認 △抽出で目視確認
判定の凡例：○合格 ×不合格 —該当なし (※抽出は全体の二割程度の数とする。)
注*) 無の場合、それに伴う不具合を確認し、不具合があればその内容を備考欄に記入します。

様邸

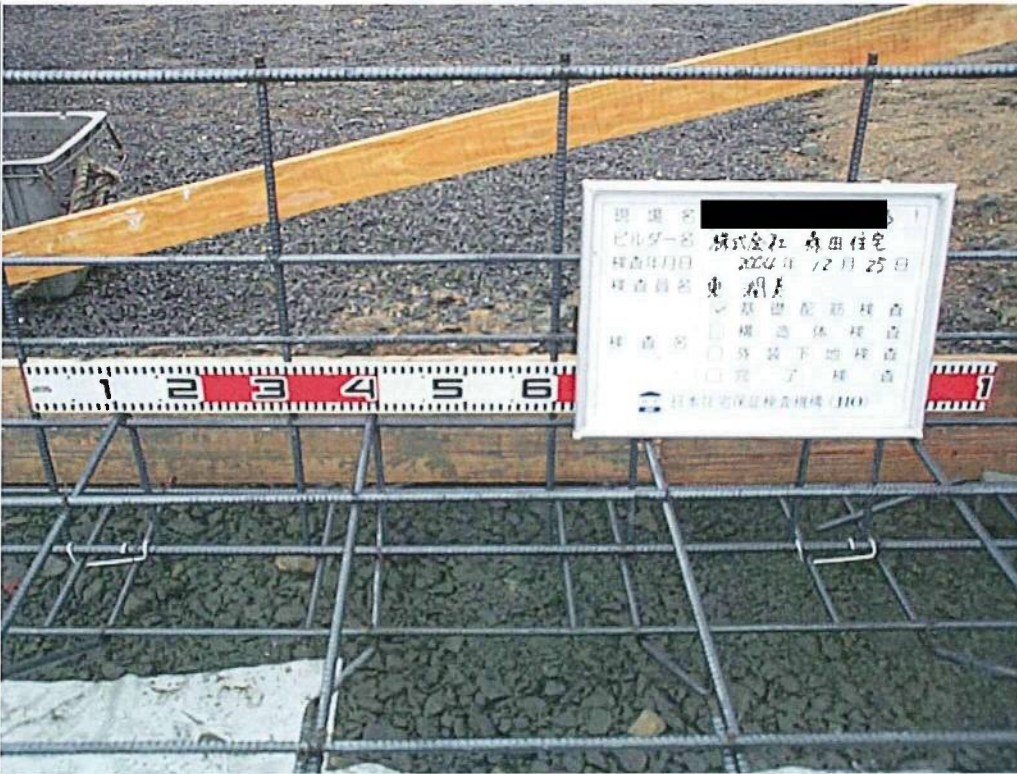
全景写真

写真1



外周部基礎立ち上がり部分

写真2



様邸

出隅部分

写真3



スラブ配筋

写真4

